



船頭のひとりごと



自然をこよなく愛するサラリーマン釣り師のきままな釣行記

vol.4 近場でのジギング

久しぶりの更新となりますが、今回の「船頭のひとりごと」は平成30年10月14日の釣行について書きたいと思います。

結論から言うと、魚はほとんど釣れなかったために、当日の写真はあまりありません。

(写真数が少ないので、10月21日の写真も同時に掲載しています。)

文章ばかりになってしまいますが、ドラマは待っていますので最後までお付き合い頂ければ幸いです。

ここ最近、朝晩はめっきりと涼しくなり、海もそろそろ秋本番の様相を呈してきました。

しかしながらサラリーマン釣り師の辛いところ、週末度に台風が来襲し思うように釣りに行けない状況が続いていました。

そんな中、知り合いの漁師からアジを釣っていたら25cmくらいのサバが邪魔をする、そのサバに青物が良く当たると聞き、秋シーズン開幕となるジギングに行ってきました。

毎年この時期は、サバを追って大型のヒラマサが回遊してきます。

ただでさえ、暴力的な引きを見せるヒラマサですが、この時期のポイントの多くは魚礁周りであり、フッキングと同時に根に突入するヒラマサに対し、根ズレをさせないようガチンコの勝負となります。ラインを出さずに捕ることが必要とされる時期だけに、タックルの準備も慎重になり、特にラインの結束は非常に重要な項目となります。

私は基本的にPEとリーダーは摩擦系のPRノットとし、リーダーと溶接リング、プレスリングへの接続はイモムシノットを多用しています。

100(%)に近い結束強度を誇るこれらの結びを信じて、限界ギリギリの戦いに挑むのです。

さて、前置きが長くなりましたが、ここから当日の釣りの話です。

潮のタイミングもあり、朝 7時00分、のんびりと港に到着。

僚船と情報交換をし準備を済ませ、7時30分に出港します。

ポイントは港から5km圏内と近いため、ポイントに着いたらすぐに釣りを始められるように出港前に準備を整えます。

本日はキャストイングタックルを含め、5セットを用意しました。

航程約20分（他の魚礁もチェックしながらの寄り道）でポイントに到着。

多少のうねりは残りますが、風も東の風で微風、釣り日和の風です。



のんびり出船、すでに日は昇っています



気持ちよい風です

最初のポイントは水深47mの魚礁群で、魚礁の最大高さは7m以上になります。

魚礁というとコンクリートブロックが1つだけあるようなイメージを持たれるかも知れませんが、概ね1箇所のポイント（半径50mの範囲とか）に、山積みされたブロックが数カ所ずつ塊となって設置されています。

風と潮を計算し船の流れる方向を見定め、これら魚礁を数カ所またぐように船をドテラ流しにします。

魚礁には、ベイト（大型魚のエサとなる小魚）のアジやサバが沢山群れています。

まず第1投目は、パイロットルアーとしてお気に入りのCBマサムネです。



SMITH LTDのCBマサムネです



装着するフックです

釣りをされない方に説明しますが、その日の状況を判断する上で使い慣れたジグをパイロットとして投入する意味は大きいです。

魚の活性の確認だけでなく、潮の動き（底潮の流れ具合）や船の流れ方の確認にもなります。
また、当日の自分自身の体調も確認できます。

さて、何度かの投入のあと、ややスロー気味でジャークしていると底から約5mでドンという当たり。
すかさずフッキングし、巻き上げに入ります…が、多少の抵抗はあるものの重いだけで引かない。
しかしながら、間違いなく魚です。

根魚かと思い、多少強引に巻き上げると、そこから一気にトルクフルに持って行き、一瞬ドラグが
効いた後、スッと軽くなりました。

サワラかサメに切られたかと思いましたが、フックは付いており、単純なフックアウトでした。
魚の正体はわかりませんが、良くも悪くも当たりがあったことは良いことです。

魚の活性も期待できます。

しかしながらその後は反応もなくなり、エソの猛攻だけ、そして干潮の潮止まりを迎えました。
こうなると当たりがないので、500m沖側の水深50mの魚礁へ移動しました。

しばしの沈黙の後、午前9時、上り潮が効き出しました。

今からが本番です。

船をドテラ流ししながら、魚礁に差し掛かった瞬間、ボトムから約10mでドカンと当たりました。
ショートピッチのハイスピードジャークをしていて腕が疲れ気味の中、いきなり来るバイトは、
腕を棍棒で殴られたような衝撃です。

ガッチリと合わせを入れて、いざ戦闘開始です。

しかし、ヒットした場所は魚礁の真上と最悪です。

相手は一気に走ります。

ラインを出されないためにドラグはかなり絞って（ロッドのMAXドラグ程度）いますが、お構い
なしに突っ走り、ドラグは高速で逆転、一気にラインは20m近く出されています。

水深と魚礁の高さを考えると、いつ根ズレしてもおかしくありません。

魚群探知機とGPSを確認すると、まだ魚礁の上を通過中です。

もう、ヤバイとしか言いようがありません。

3m巻けば5m出されるを数回繰り返す、ゴリっという嫌な感触の後、テンションが抜けました。
痛恨のラインブレイクです。

回収後、リーダーが数mにわたりザラザラでした。

ちょっと大きすぎる相手との格闘の結果を知りに電話してみると、彼もまた大型のヒラマサに打ちのめされてました。

ただ、ヒットパターンを掴んだので、あらためて同じ種類のジグで、同様なパターンで攻めます。

潮上に船を立て直し、数投後、またまたドカンと来ました。

今度は先ほどよりも上、ボトムより15m程度でヒットです。

合わせを入れた後、先ほどよりさらに締め込んだドラグで対応します。

そのおかげか、一気に走られることもなく、一進一退の攻防が続きます。

一瞬、頭の中で今晚の刺身とあら炊きを想像してしまったのが最後、そこから一気に走られてまたまた痛恨のラインブレイク。

ハッキリ言って、放心状態です。

かなり強気の勝負に出ましたが、またまたやられてしまいました。

今、メタルジグを口にくわえたまま悠然と泳ぐヒラマサが船の下にいると考えると、腹が立ってしかたありません。

ただ、今晚のおかずが何もない以上、頑張るしかありません。

しかし、残念ながらヒラマサのあたりはここで途切れてしまいました。

それから約2時間半、当たりのないまま筋トレ状態で必死にジグをシャクリますが、音沙汰なしです。

心が折れそうになるのを必死でつなぎ止めながら、晩飯確保に努めます。

その間、マイクロジギングも試しますが、当たってくるのはエソや小ダイ、サゴシにサバです。

おまけに、小型のハンマーヘッドシャークまで釣れる始末。

晩飯が遠のいていきます。



マイクロジギングに小型のハンマーヘッド

午後0時過ぎ、場所を幾度か移動して、最初の魚礁に戻ってきました。

腕はすでに疲弊し、心身ともに辛い状況です。

しかしながら、ドラマは待っていました。

魚礁の上を通過し、ベイトの群れの中にメタルジグが入った瞬間、ボトムより約20mでドカンと来ました。

食わせた位置も底から離れており、しかも魚礁から船が離れていくポジションです。

魚礁の最上部までも、約15mの余裕があります。

但し、弱気にはなれません。

一気に勝負に出ます。

比較的すんなりと上がってきたのは80cmのコンディション抜群のヒラマサでした。



サイズは不満ですが、執念で捕った一匹

今回、5セットのタックルを持ち込みましたが、当たりがあったジグの種類とロッドはすべて同じものでした。

同じロッドで魚の引きの差を感じられたことから、太刀打ち出来ずにバラした2本については少なくとも10kgオーバーであったと思います（魚を掛けた位置も悪かったですが）。

明らかにパワーが違いすぎました。

→ ちなみに翌日、知り合いがガチンコタックルで敵討ちをしてくれ、やはり10kgオーバーでした。

ロッドは、近海のオールラウンダー的なモデル（5kgクラスをメイン）でした。

1ランク以上パワーのあるロッド・リールを持ち込んでいたら全てキャッチできていたかも知れませんが、所詮は「タラレバ」です。

このロッドだからこそ生まれるアクションに、魚が反応したと勝手に思い込みます。

サイズはぼちぼちで多少不満も残りますが、執念で捕った一匹は非常に価値があります。

尚、翌週10月21日は、発注者支援のSさんと一緒に釣りに出かけました。

朝早い時間に同じCBマサムネに連続ヒット、しかしながらその後の下り潮はまったく動かずに後半は撃沈してしまいました。

ただ、海は凧で最高に気持ち良い釣り日和でした。



気合いでジャークです



ジャークの結果



価値ある一匹



キジハタも当たります



小型のマハタ



サゴシです。

◎ 今回の一曲は…

今回ご紹介する曲は「デヴィッド・ベノワ」のアルバム「Inner Motion」から

「M.W.A. (Musicians With Attitude)」です。

彼の奏でるピアノの音色は爽やかで、ドライブには最高です。

皆様は、どのような贅沢な時間を過ごされていますか？